

過去の後援含め取り消しを

統一協会系イベントを後援してきた県教委に申し入れ

山本のぶひろ県議と日本共産党熊本県委員会は9月28日、白石伸一県教育長に対し、統一協会関連団体の行事への名義後援の取り消しを再度申し入れました古田田亮市町村教育局長が応対しました。

山本県議らは県教育委員会に対し、全ての名義後援を取り消すとともに、今後一切の関係を持たないよう9月7日に申し入れをおこなっていましたが、その後回答がなかったために再度の申し入れとなりました。

古田局長は、統一協会との関連が指摘されている団体に対しては、今後後援しない方向であることを表明する一方、過去に後援した行事に

については、「情報収集と精査が十分ではなかったと反省しているが、既に終了している行事の取り消しは想定していない」と回答しました。

山本県議は、「県教委は、今後は後援しないという理由について、『県民に不安や疑念が増大しており、県民感情を踏まえて総合的に判断』というが、そもそも旧統一協会が反社会的カルト集団であるという認識を県教委は持っているのか疑問。過去の後援にしても「反省」は表明するが「誤りであった」とは認めようとしていない。こうした姿勢そのものについて、今後さらに見解をただしていききたい」と表明しました。

6・7波の反省踏まえ感染症対策強化を

コロナ感染症対策の新たな県方針に山本県議が質疑



古田局長に要望書を手渡す山本のぶひろ県議(右端)ら

山本のぶひろ県議は、9月29日に開かれた厚生常任委員会におい

て、県が示したコロナ感染症対策の新たな方針に対して質疑をおこなっていました。

肥薩線の早期再建を

山本県議ら、国とJRに要望

令和2年7月豪雨で甚大な被害



九州運輸局に要望する(左から)山本のぶひろ県議、田村貴昭衆院議員、松岡勝党県委員長ら=9月30日、福岡市

が生じ、現在も不通が続くJR肥薩線の早期全線再開を求め、山本のぶひろ県議らは9月30日、国土交通省九州運輸局とJR九州本社(ともに福岡市)に申し入れをしました。

田村貴昭衆院議員が同席しました。

現在、国と県、JRによる「JR肥薩線検討会議」が行なわれていますが、この中で、当初示されていた復旧費のJR負担が大幅に減額される見通しであることが示されています。

JR肥薩線の全線再建は、地域経済や住民の暮らしを支えるうえで欠かせません。また甚大な被害をもたらした豪雨災害からの復旧、再建を目指す人々に希望の光をともすものともなります。

山本県議は、国とJR、熊本県が知恵と力を合わせてぜひ早期再建を目指してほしいと強調しました。

今回示された新たな方針は、高齢者や重症化リスクのある方に対する適切な医療の提供を中心とする考え方に立っています。「全数把握の見直し」によって、症状が軽い人はセルフチェックで済まされ、陽性となっても登録(任意)しなければ医療にアクセスできなくてもいいという状況となりました。

山本県議は、感染の波が来るたびごとに感染者数が飛躍的に増大し、発熱外来がパンクし、早期治療が遅れてしまった状況があるのに、医療体制強化の具体策が検討されていないと強調。感染症対策の大原則である早期発見・治療がないがしろにされる危険性を指摘しました。

さらに、クラスターが多発した高齢者施設では、入院が必要な患者が施設内に留め置かれるという深刻な事態が広がったのに、新たな方針では「施設内療養」を前提としていることは問題ではないかと指摘。介護が必要な高齢者への医療体制強化の方針を示すべきだと訴えました。

日本共産党 山本のぶひろ県議会だより

2022年
10月号

熊本市中央区水前寺6丁目18-1
電話096-3333-2647
ファックス 385-0255
HP「日本共産党 山本のぶひろ」

緊急放流を想定しない河川整備計画に「異存なし」でよいのか

山本のぶひろ県議、蒲島知事に見解ただす

台風14号に伴う大雨で、球磨川の県営市房ダムでは貯水量が限界に達し、緊急放流が実施されました。

今日の気候変動のもとでは、ダムの緊急放流は「常に起こりうる事態」として想定する必要があります。

ところが、このほど策定された球磨川水系河川整備計画は、あくまでダムによる洪水調節機能が発揮され続けることを前提として、堤防や護岸の高さが設定されています。

山本のぶひろ県議は9月

26日の県議会本会議において蒲島知事に、「なぜ緊急放流を想定しない河川整備計画に『異存なし』と言えるのか。もしも被害が発生したときに知事はその責任が負えるのか」と質疑をおこないました。

「今回の大雨のように、緊急放流においても洪水調節機能は発揮される」と強弁する蒲島知事。しかしまたま幸運にも雨が小降りになったから助かったものであって、なぜ緊急放流を想定しない堤防や護岸の高さ

に『異存なし』と言えるのか、知事からの回答はありませんでした。

山本県議は、「結局、河川整備計画はダム計画を事業化することが最大の目的になっていくのではないかと指摘。ダムの緊急放流を想定できない河川整備計画に『異存なし』の対応では県民の安全・財産を危険にさらすことになると訴えました。

飲酒・喫煙県議は辞職を

山本県議、「見解」を議長に提出

自民党の井手順雄県議（当時）が8月、全国高校野球選手権大会が行なわれている甲子園球場の禁煙の観客席で喫煙した問題を受け、日本共産党熊本県委員会は9月16日、速やか

な議員辞職を求める見解を発表しました。

見解では、「不特定多数、とりわけ多くの高校生が観戦する応援席での喫煙は常識からかけ離れている」「20歳未満の受動喫煙防止が柱の『改正健康増進法』義務違反に当たる」と厳しく指摘し、自ら速やかに議員辞職すべきであると指摘しています。

記者会見後、山本のぶひろ県議は、発表した見解を溝口幸治県議会議長あてに提出。「井手県議が辞職を決断しないなら、議会として辞職勧告すべき」との見解を表明しました。



手島議会議務局長(左)に見解を届ける山本県議

地域 渡鹿 暗く危険な白川堤防に 照明がともります

熊本市渡鹿地域で整備された白川堤防の河川管理用通路は、夜間も多くの自転車や歩行者が通行しています。

暗く危険なため、照明灯を設置してほしいとの要望が山本

県議に寄せられました。

そこで国交省や熊本市に問い合わせたところ、自転車・歩行者専用道路として、道路照明灯や案内標識、転落防止柵等の整備を進めていく計画が明らかになりました。

山本のぶひろ県議は上野みえ子熊本市議とともに9月8日、熊本市自転車利用推進課を訪ね、住民の要望を伝えるとともに、令和6年度までに整備予定である竜神橋（小積橋区間（左岸））の整備計画の概要を確認しました。



説明を受ける(右から)上野みえ子市議、山本のぶひろ県議